

「こんな〇〇〇に誰がした」と、戦後すぐの歌と映画の題名をもじるとすれば、「こんな日本に誰がした」と呟きたくなるのが、カルト宗教と政治の関係  
7月13日のゼミは、芦田文夫『資本に対抗する民主主義』Ⅱ部2章「20世紀「現存社会主義」と市場経済化」・3章「体制転換—「市場経済化」と主体形成の歪曲」を松村さんの報告で行いました。60年代の内包的経済発展。直接的な国家計画から間接的誘導計画へ、70年代の停滞、ユニバーサル企業へ。生産性向上・効率化と労働疎外の克服へ、二兎を追う。労働者自主管理へ個別化・参加が消滅へ。89年の市場化の下で「新しい社会主義経済」の模索、市場経済移行の具体化、改革構想の新たな段階。国有企業の企業長が選挙制から任命制に、企業評議会・理事会の共同決定へ変容、株式会社化・民営化、経済危機での自主管理の退行と消滅へ。生産・労働への主体の権利確立・自主性・平等から経営権の容認へ、労働権・生存権・社会権と経営権の対立・国家による制御。主体の自由と権利を社会全体で意識化させる実体的基盤がソ連の長い歴史過程で侵蝕されていた。経営権に対する社会的な制御・包摂を強化する基盤の再構築が必要であったのではないか。労働運動と社会運動との連動で社会的ルール・基準制度で、資本の経営権への社会的制約・規制が所有に対する制御へ進化する道を切り開くことになる。討論では、1980年代前半のソ連経済はどうか、それからペレストロイカも、建前と現実の問題。ここで芦田氏は何をすべきかを語っていない。政権のノーメンクラトゥラは自分達の権限を保つことに関心。革命後のスターリン体制でソビエト制度が変化した、レーニングラド派とモスクワ派の抗争。労働組合の権限縮小、実施の主体は。中国にも労働組合があるが同様の問題。経営権とは何か、所有に基づく？ ソ連の経営者は自分の利益・短期的。中国の資本主義化は国家により例外的。労働組合による労働者自主管理は。出席は、小野さん(Zoom)、高島さん、川口さん、松村さん、斎藤さん(Zoom)、竹内さん(Zoom)、山口さん、後藤さん(Zoom)と高田の8名でした。

\* 7月27日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 873 5918 3975 パスコード: 155960

\* 7月27日ゼミは、44章と45章の最劣等地・絶対地代をまとめて行います。報告は興味また問題ある論点等を中心に行います。

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

- 7月27日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』3巻4・45章 最劣等地・絶対地代 報告 小野さん  
9月14日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
芦田文夫『資本に対抗する民主主義』Ⅱ部4・5章 報告 川口さん  
9月29日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』3巻46章 建設地代、鉱山地代・・ 報告者未定  
その後 10/12, 10/26, 11/9, 11/23, 12/14, 12/28 : アイクルの部屋